



## 1 道徳授業づくりのポイント

小学校学習指導要領解説道徳編（平成20年8月）では、道徳教育における道徳の時間の役割を「道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うもの」とし、その中核的な役割や性格を明確にしています。要となる道徳の時間は、児童が道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、内面的資質としての道徳的実践力を身に付けていく時間です。そのため、道徳の時間の指導については、児童が意欲的に道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めることができるよう、指導過程や指導方法を工夫することが大切です。また、児童が、自らの道徳的な価値観の変化や成長を実感できるように工夫することも大切です。

そこで、小学校道徳の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 魅力的な教材の開発や活用

教材の開発や活用に当たっては、児童の感性に訴え、感動を覚えさせることができるなどの要件を踏まえることが必要です。そのため、日常から報道や書籍、身近な出来事など、教材を広く求める姿勢を持つことが大切です。具体的には、先人の伝記や自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とした資料、地域の文化や出来事などを取材した郷土資料など、多様な教材の開発と活用に努めることが必要です。

### Point 2

#### 地域の人材の活用

地域で活躍している人々をゲストティーチャー（以下「GT」という。）として迎え、授業への協力を得ることは大きな効果が期待できます。GTから、実体験に基づいて分かりやすく語ってもらうことは、児童が道徳的価値を深めていくための手がかりになります。また、地域の先人や伝統と文化などを聞き取り、地域教材の開発への協力を得ることが考えられます。さらに、開発した資料の活用では、解説や実演をしてもらったり、児童の質問を受けて回答してもらったりするなどの協力を得ることも考えられます。そのために、日ごろから地域の人材の情報を集めたりリストなどを作成しておくことが必要です。

### Point 3

#### 自分の考えを基に表現する機会の充実

話し合いを深めるためには、児童それぞれに自分の考えを持たせ、効果的に表現させるなどの工夫が必要です。話し合いにより、自分とは異なった考えに接し、自分の考えが深まることを実感することができます。

また、話し合いとともに書くことも重要です。書くことにより、不明確だった自分の考えが整理されたり、日ごろは忘れていた体験や自分自身のことを思い出したりすることができます。具体的には、学習を通して初めの段階と比べて自分がどう変わったかを振り返ることができるような書く活動、児童が想定したもう一人の自分に問いかけて考えを深める自己内対話などが考えられます。その際、「心のノート」を活用するとより効果的です。

## 2 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

◆第5・6学年（内容項目：1－(2)）希望・勇気

題材名 「夢に向かって」 大地をキャンバスに―<sup>しげもりみれい</sup>重森三玲―

Point 1

Point 2

Point 3

を生かした授業

### 1 実践のねらい

小学校高学年は、ある人物の生き方にあこがれたり、自分の夢や希望がふくらんだり、児童がそれぞれに高い理想を追い求めたりする時期だといわれます。また、同時に自分に自信が持てなかったり、夢と現実の違いを意識したりする時期でもあります。このような時期だからこそ、様々な生き方への関心を高めるとともに、努力目標を立て、希望と勇気を持って取り組み、夢に向かって前進していこうとする強い意志と実行力を育てることが必要になります。そこで、本実践では、郷土の先人である「重森三玲」の生き方に学ぶことにより、児童が希望を持つことの大切さやざ折感を克服する人間の強さについて考えられるようにしたいと考えました。

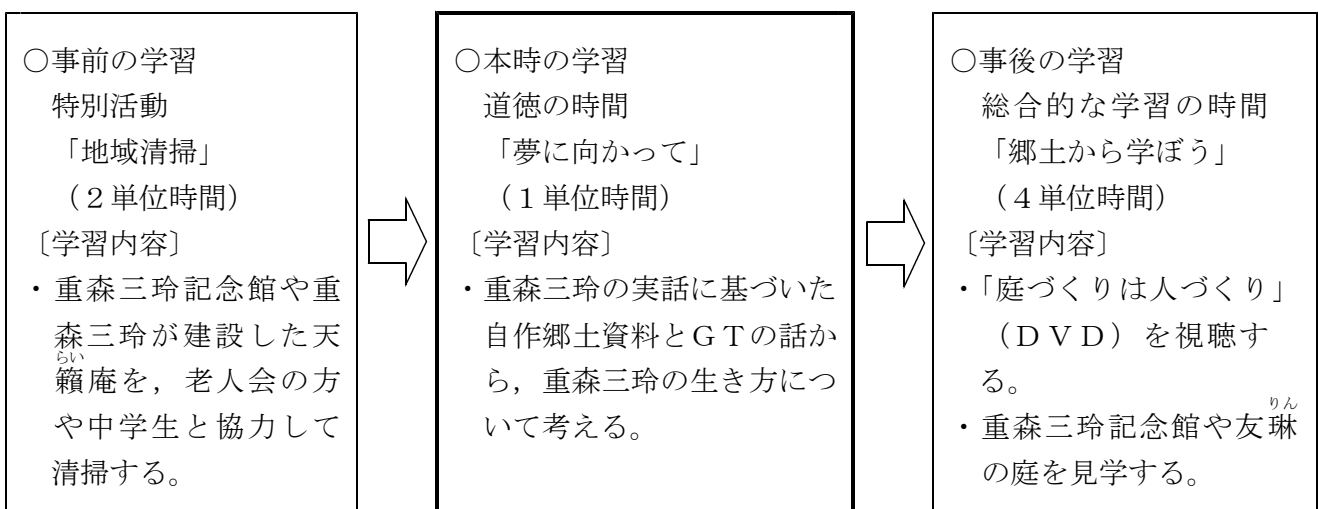
資料は「大地をキャンバスに―重森三玲―」という岡山県の郷土の実話に基づいた自作資料です。この資料は、重森三玲の生き方について地元の方の協力を得ながら取材し創作したもので、学校の財産として大切に受け継がれてきているものです。本実践に当たり、ねらいに迫るために中心場面を再考し、それに応じて加筆、修正することとしました。 **Point 1**

また、重森三玲の弟子である作庭家の岩本俊男さんをGTとして招き、重森三玲の夢に向かって努力を続けた生き方について、児童に直接語っていただくこととしました。これにより、重森三玲の生き方が強く印象付けられ、児童は重森三玲の生き方に尊敬やあこがれを抱くことができるようになると思われました。そして、将来、困難なことに出会っても希望と勇気を持って努力を続けることの大切さを感じ取ることができるようになると思われました。 **Point 2**

さらに、終末の段階では、書く活動を取り入れることにしました。学習を振り返り、学んだことや考えたことなどを書くことにより、ねらいとする道徳的価値を自分とのかかわりでとらえやすくなると思われました。 **Point 3**

### 2 学習指導の実際

#### 1 指導計画



## 2 資料の作成

### (1) 資料の概要

三玲は、子どものころから絵を描くのが大好きだった。尋常高等小学校を卒業した後は、農作業をしながら家で勉強を続けていたが、絵の勉強をするという夢をかなえようと、東京の美術学校に入学した。その後、三玲は西洋の美術を学び、日本と西洋の美術を組み合わせた絵を作り出した。しかし、三玲の絵はだれにも認められなかった。

そのようなとき、ある寺を訪れた三玲は、その庭園の美しさに息を飲み、「小さなキャンバスだけが絵ではない。私はこの大地に絵を描きたい。庭園を作る人になろう」と決心した。その後、三玲は作庭の研究に没頭し、全国各地に二百以上の有名な庭を作った。三玲が作った庭園は、日本人はもとより外国の人々にも愛され、現在も感動を与え続けている。

### (2) 自作資料の改訂

まず、重森三玲に関する資料を集めました。その上で、「希望・勇気」というねらいに迫ることができるように資料を見直しました。集めた資料を分析すると、三玲は描いた絵が認められなかったとき、明確な将来像もなく悩み、葛藤<sup>かつとう</sup>していたことが分かりました。そして、「ある寺の庭園」を見たときに、人生の転機ともいえる直感的な強い決心を抱いたことも分かりました。

そこで、中心場面をこれまでの「だれからも絵を認めてもらえず悩む」場面から、人生の転機となった「ある寺の庭園を見て大地に絵を描こうと決心した」場面（「(1) 資料の概要」の下線で示した箇所）に変えました。また、中心場面を変えるに当たり、「ある寺の庭園」を見る前に持っていた三玲自身の葛藤が描かれるように書き加えるとともに、絵が認めてもらえず悩んでいたころの表現や文章量が軽くなるようしました。

## 3 授業展開例

### (1) 本時の目標

郷土吉川（岡山県加賀郡吉備中央町）に生まれた重森三玲の生き方を通して、夢を持ち、その夢に向かって努力を続けようとする心情を育てる。

### (2) 本時の主な学習内容及び学習活動

|    | 学習活動                           | 主な発問と児童の意識   | 教師の支援                                     |
|----|--------------------------------|--|---|
| 導入 | 1 重森三玲について、知っていることを話し合う。       | ○資料に登場する「重森三玲」を知っていますか。<br>・聞いたことはある。<br>・天籟庵を作った人だ。   | ・重森三玲や天籟庵の写真を提示し、何をした人だろうと問い、資料への期待感を高める。 |
| 展開 | 2 資料「大地をキャンバスにー重森三玲ー」を読み、話し合う。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"><b>Point 1</b> 自作した資料を児童がどのように受け止めるのかを予想して、提示の仕方、発問の仕方などを十分に検討しておくことが大切です。</div> ○美術学校へ入学したときの三玲さんはどんな気持ちだろう。<br>・やっと夢がかなった。<br>・頑張るぞ。 | ・重森三玲の写真や影絵を提示しながら資料を読むことで内容をとらえやすくする。    |

|        |  |   |  |
|--------|--|---|--|
| 展<br>開 | 3 GTの話<br>を聞く。   | <p>○絵が認められなかったときの三玲さんはどんな気持ちだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私には才能がないのだろうか。</li> <li>・あきらめて郷土へ帰ろうか。</li> </ul> <p>◎ある寺の庭園を見たとき、三玲さんはどんな決心をしたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あきらめないで努力したい。</li> <li>・庭をキャンパスにしたい。</li> <li>・この大地に絵を描きたい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本発問で、重森三玲が大きな夢を持っていたこと、描いた画が認められず自信を失い悩んでいたことを押さえる。</li> <li>・中心場面での重森三玲の思いを一部空欄にし、考えさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「小さなキャンパスだけが絵をかくものではない。わたしは〔                                  〕たい。庭園をつくる人になろう。」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助発問により、悩み抜いた末に持った直感的な強い決心であることをとらえさせる。</li> </ul> |
|        | 4 学習を振り返り、学んだことや考えたことを書く。  | <p>○実際の三玲さんはどんな人だったのか、話を聞きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2倍努力してもだめなら3倍努力する三玲さんはすごいな。</li> <li>・郷土吉川に努力を続けて夢をかなえた人がいたんだな。</li> </ul>  | <p><b>Point 2</b> GTの体験を踏まえながら、登場人物の生き方を語っていただくことにより、ねらいとする価値がとらえやすくなります。</p>  |
| 終<br>末 | <p>○今日の学習で学んだことや考えたことを書きましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あきらめないで努力を続けた三玲さんに驚きました。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・心に強く残っていることを書くように促す。</li> <li>・教師も学んだことを述べ、夢に向かって努力することの大切さが、児童の心に残るようにする。</li> </ul>   |  |
|        |  | <p><b>Point 3</b> 学習を振り返り、心に残ったことを書くことにより、児童はあいまいであった自分の考えを整理することができます。</p>   |  |

### 3 成果と課題

#### 1 道徳の時間の学習の様子

導入では、重森三玲の生家が友達の家付近にあると聞き、多くの児童が驚きました。

展開では、描いた絵が認められないで悩み葛藤している重森三玲に対して、多くの児童が共感的な発表をしました。中心場面の空欄への書き込みでは、「大きな庭に見た人がびっくりするような絵を描きたい」「庭を一つの絵として見てもらいたい」などがありました。ここで、



図 授業の様子

「三玲さんの決心は、思いつきみたいなものだろうか。それとも、悩み続けて見つけたものだろうか」と問い、悩んだ末に持った直感的な強い決心であることを押さえました。

その後、GTを紹介しました。GTは、重森三玲と共に過ごした様々なエピソードを語ってくださいました(図)。涙ぐみながら語る姿から、夢と希望を持って努力を続けた重森三玲の生き方を感じ取ることができました。児童は、身を乗り出して話に聞き入っていました。GTが語った、重森三玲のだれにでも優しく温かい人柄、人の2倍も3倍も勉強し努力する意志の強さが児童の心に残ったようでした。児童が書いた感想(一部)を紹介します。

- ・三玲さんは、自分は努力して相手には温かく優しくできるすごい人だと思いました。三玲さんと一緒に働いていた岩本さんがとてもうらやましいです。
- ・三玲さんは、だれにも認められないのにへこたれずに頑張り、それがだめでもまた頑張っすごいと思いました。ぼくも三玲さんみたいにあきらめずに頑張りたいと思いました。

## 2 単元全体の学習の様子

地域清掃では、天籟庵を一緒に清掃をしていた老人会の方から、「これは、重森三玲さんが建てた『郷土吉川の宝物』なんだよ」と教わりました。多くの児童は、天籟庵が地域の宝物だと聞き、驚いていました。

道徳の時間の後、児童は、重森三玲記念館を見学したり、DVDを視聴したりして、重森三玲の考えや業績について調べました。友琳の庭の見学では、そのざん新さに多くの児童が驚きの表情を見せました。その後、同行していただいたGTから、重森三玲は人に感動を与えるよりよい庭を作るために、研究を重ね、努力し続けたことを聞きました。

学習のまとめとして、重森三玲の生き方を学んで心に残ったことを書きました。

- ・三玲さんは、石がどのようにしたら美しく見えるかをよく考えていてすばらしいと思いました。何度失敗してもあきらめていなくて「夢は必ずかなう」という言葉が心に残りました。
- ・三玲さんは、すごい人だなと改めて思いました。私が一番好きになった言葉は「永遠のモダン」という言葉です。私も人から「すばらしい」と言われるようなことがしてみたいです。

## 3 実践を終えて

自作資料を再構成し、中心場面を見直したことにより、児童はねらいとする重森三玲の生き方を感じ取ることができたように思います。また、重森三玲をあこがれの対象としてとらえ、人の生き方のモデルとして学習を深めることができたと思います。 **Point 1**

また、GTの教育的効果を改めて感じました。GTとの事前の打合せでは、指導計画と学習内容の概要を知らせ、学習の意図を知っていただいた上で、児童に伝える内容を精選していただきました。GTだからこその話を聞いて、児童は心揺さぶられる体験をすることができたと思います。 **Point 2**

そして、終末の段階で書く活動を取り入れたことにより、児童は、資料やGTの話から学んだことや考えたことを自分なりの言葉で整理することができたと思います。今後は、話し合いを充実させ、自分とは異なる考えに触れ、自分の考えが深まるという体験を児童がすることができるよう工夫をしていきたいと思います。 **Point 3**

### 実践者からのコメント

資料を分析していく過程で、教師である私自身が重森三玲の生き方にあこがれを抱き、夢を持って努力を続けることの大切さを実感することができました。このような思いが、自作資料を改訂したり、GTを活用したりする原動力になったと思います。

## 8 これからの方向性

道徳の時間が道徳教育の要としての役割を果たすためには、教育活動全体を通じて行われる道徳教育との関連を明確にすることが必要です。また、学習指導要領に示された道徳の指導内容全体を視野に入れながら、内容項目の指導を計画的に行うことが必要です。

ここでは、前述した授業づくりのポイントに加え、大切にしたい内容を次に示します。

### 指導計画

#### 授業に生きて働く年間指導計画の作成

道徳の時間の指導が、計画的、発展的に行われるためには、道徳教育の全体計画を基に、道徳授業に生きて働く活用しやすい年間指導計画を作成することが必要です。そのためには、指導の時期、主題名、内容項目、ねらい、資料に加え、展開の概要や他の教育活動との関連などを示し、各時間の指導の概要が具体的に分かるようにすることが必要です。

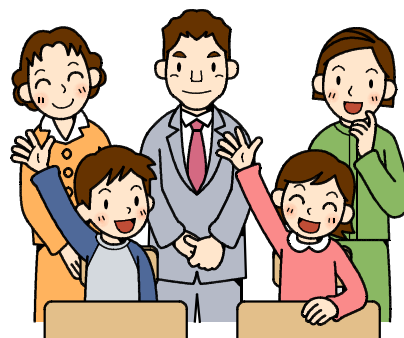
道徳の時間に校長や教頭、他の教職員がかかわることができるようにするため、また、計画的に授業研修を行うことができるようにするため、指導者や授業研修についても道徳の時間の年間指導計画に示しておくことが大切です。

### 家庭・地域連携

#### 道徳の時間の授業を保護者や地域の人々に公開

道徳教育には、家庭や地域社会との連携が不可欠です。保護者や地域の人々に児童のよさや課題を知ってもらい、家庭や地域社会での道徳教育が推進できるようにするには、授業を公開し、それに基づく話し合いを持つことが効果的です。授業では、保護者や地域の人々が児童と同じように授業を受ける形で参加したり、児童と対話したりするような工夫も効果的です。授業公開により、児童はもとより、保護者や地域の人々にとってもよりよく生きる上での課題を共有することが期待できます。

また、道徳の時間の学習の様子を、学校・学年・学級通信やパネル展示などで、積極的に保護者や地域の人々へ知らせることも大切です。



### 中学校への接続

#### 連続性や発展性を考慮した道徳性の育成

小学校学習指導要領「第3章道徳」には、各学年を通じて、児童の「自立心」や「自律性」、  
「生命を尊重する心」の育成に配慮することが大切であると示されています。

これを内容項目の四つの視点から見ると、1の視点（主として自分自身に関すること）では、生活の自己改善を図ることの重要性を示すとともに、自立心や自律性及び自己に対する責任感を  
はぐくむことを明確にしています。また、3の視点（主として自然や崇高なものとのかかわりに  
関すること）では、身に付けるべき基盤的な性格を持つ内容として、生命を尊重する心の育  
成をどの学年も項目の最初に位置付けています。さらに、4の視点（主として集団や社会との  
かかわりに関すること）では、社会参画への意欲や態度の育成、法や決まりを守る態度の育成  
にかかわる内容を強調しています。

小学校では、中学校への接続を意識し、各学年段階における内容項目の連続性や発展性を考  
慮した授業づくりを進めることが大切です。